



年 組 名前

道新で
ワークシート

非日常の静寂味わう

冬キャンプ 道内で人気急上昇

道内で冬のキャンプを楽しむ人が増えている。札幌や近郊では週末、テントサイトが満床となる人気キャンプ場もあり、道南では通年営業のキャンプ場が新たにオープンした。夏に比べ混雑せず、空気が澄み静かで虫がいないことなどが冬の魅力という。ただ、たき火やストーブで暖をとる際には火事や一酸化炭素中毒に注意が必要。専門家は「適切な安全対策を」と呼びかける。

(柳沢郷介、西本紗保美)

混雑、虫と無縁 装備が進化

「静寂の白銀の世界で、ゆったりとせいたくなく時間が流れていく。究極の非日常。癒やされますね」。

札幌市内の気温が氷点下10度を下回った8日夕、南区のキャンプ場「札幌市定山溪自然の村」で中央区の会社員 Aさん(59)はたき火を眺めながら、ワインを味わった。冬キャンプを始めて5季目。冬季は月2回ほど妻とキャンプ場で週末を過ごす。三角形のテント内には中央にまきストーブを配置しており、上着を着ていると汗ばむほど暖かい。

同キャンプ場の土井知明さん(41)は、冬の利用客について「数年前までは一部の愛好者だけだったが、こ

こ2年で爆発的に増えた」と説明する。週末は26区画が満床になることもあるという。

苫小牧市のオートキャンプ場「オートリゾート苫小牧アルテン」の冬季(11月3月)のテントサイト利用者は、2011年度の1138人から、18年度は4782人に増えた。本年度は6千人を超える勢いという。胆振管内安平町の「ファミリーパーク追分」も3年前の冬は月50組程度だった利用が、今年1月は700組を超えた。

渡島管内七飯町の大沼国定公園そばには今年1月、道南初の通年営業キャンプ場「ビヤンドビレッジ」が開業。暖房やベッドなどを



キャンプ場内に点在するテントの明かり＝ファミリーパーク追分(小型無人機使用、小室泰規撮影)

完備した豪華キャンプ「グランピング」用のテントもあり、同キャンプ場の山口颯一朗さん(28)は「寒さの中でたき火や鍋料理を楽しんで」と話す。

の間で10年ほど前から広まり始めた。寒冷で積雪の多い北海道にも浸透したのは、装備や施設の進化に加え、会員制交流サイト(SNS)などでノウハウが共有されるようになったためという。

ただ、テント内で火を扱うには注意が必要だ。キャンプ情報のブログ「キャンプ王に俺はなるっ」を運営している大沢孝弘さん(44)「札幌市中央区」は、消火器や一酸化炭素警報機を備えるように促し、「極寒の中、軽い気持ちでキャンプに行けば命に関わる。SNSには間違った情報も多く、経験者に直接聞くなどして、万全の準備をして楽しんでほしい」と呼びかけている。

冬季営業している道内の主なキャンプ場(2月28日現在)

札幌市定山溪自然の村	札幌市南区定山溪	011-598-3100
ファミリーパーク追分	胆振管内安平町追分旭648	0145-25-3480
オートリゾート苫小牧アルテン	苫小牧市樽前421-4	0144-67-2222
ニセコサヒナキャンプ場	後志管内蘭越町湯里224-19	0136-58-3465
真狩焚き火キャンプ場	後志管内真狩村社86-1	0136-55-6400
エルム高原リゾート家族旅行村	赤平市幌岡町377-1	0125-32-6160
スノーピーク十勝ポロシリキャンプフィールド	帯広市拓成町2-2-7	0155-60-2000
遊び小屋コニファー	十勝管内清水町旭山2-56	090-1642-6418
とうまスポーツランドキャンプ場	上川管内当麻町市街6区	0166-56-9020
アサヒの丘キャンプ場	上川管内東川町東9北3	080-8297-9393
ビヤンドビレッジ	渡島管内七飯町大沼町158	050-6867-5442



年 組 名前

道新のワークシート

①冬のキャンプの魅力を書き出してみましょう。

														15
														30

②キャンプ場の経営者になったつもりで、客を誘うためのアピールの言葉を考えましょう。